

観 光

# 天草で韓国版トレッキング

## 松島が「オルレ」コースに認定 維和島に続き2カ所目



▲千蔵山などを巡る松島コース（11.5 km）が「九州オルレ」第2次コースに選定された上天草市で、コースオープン式の後、菜の花が咲く松島コースを歩く韓国のオルレ団体や報道関係者など（2月19日、上天草市松島町知十で）



▲松島コースのオープン式でテープカットする関係者。右から溝上義則熊本運輸支局長、千原光明天草四郎観光協会会長、川端祐樹上天草市長、徐明淑社済州オルレ理事長、小原雅晶県観光課長、小原忠隆県観光連盟事務局長

上天草市は韓国版のトレッキング「オルレ」で、維和島に続き松島が同市2カ所目のコース認定を受けた。2月19日には韓国からオルレ団体やテレビ局の取材クルーなど約40人が訪れ、今後の「オルレ観光」に期待が広がった。コースオープン式に出席した川端祐樹上天草市長は「維和島に続いて上天草市内2カ所目のコース認定を受けたことが大きい。相乗効果が期待できる」と、韓国からの観光客増加に期待感を寄せた。

九州運輸局と九州観光推進機構では、震災と円高で激減した韓国誘客の建て直しでオルレに注目。11年8月に社済州オルレと「九州オルレ」の立ち上げと運営アドバイスで業務協定を締結し、韓国のオルレファンの呼び込みを目指している。

その「九州オルレ」第1次コースに昨年2月、同市大矢野町の「天草維和島コース」を含む九州4コースが、今年1月の第2次選定で平戸（長崎県）、高千穂（宮崎県）、霧島妙見（鹿児島県）の3コースとともに「天草松島コース」が選ばれた。2コースが選定されたのは上天草市が初のケースだ。松島コースは、知十を出発して田園地帯を歩き、天草の多島海の眺望を楽しめる千元森嶽、千蔵山、松島展望台を経て合津港までの11・5 km。ゴールの合津港には「龍の足湯」もある。

### 2コース化で相乗効果に期待

上天草市

誘客効果も現れている。維和島には昨年2月の認定から11月までの9カ月間で、「韓国から約200人、県内を中心に国内から約600人が訪れ効果が出てい」と同市商工観光課の村川和敬課長。県内からは日帰りが多いが、



▲2月19日、小雨の中、「九州オルレ天草松島コース」に選定された上天草市松島町の千蔵山に登る韓国人参加者

韓国のオルレ愛好家のほとんどが上天草市内に宿泊、一定の経済効果を生んでいる。維和島でのおもてなしは地区のまちづくり協議会が担っている。

村川課長は「2コース化で上天草に宿泊して両コースを回る国内客も期待できる。旅行会社からツアー造成の話も出始めている」と、韓国と国内の双方からの「オルレ誘客」に期待を膨らませる。

### 韓国で人気の「オルレ」

韓国・済州島の方言で「家に帰る細い道」の意味。同島でトレッキングをする人が少しずつ増え、現在「オルレ」はトレッキングコースの総称として呼ばれるようになった。

になった。

オルレの魅力は、自然を五感で感じ、自分のペースでゆっくりとコースを楽しむところにあるという。韓国のオルレ人気は高く、2010年度に済州島を訪れた約670万人のうち、オルレ参加者が約200万人と言われる。



▲「カンセ」と呼ばれる済州島の馬をモチーフにしたオブジェ。馬の頭が進行方向を示している



▲青い矢印がペイントされた石。コース上の要所に設置されている